

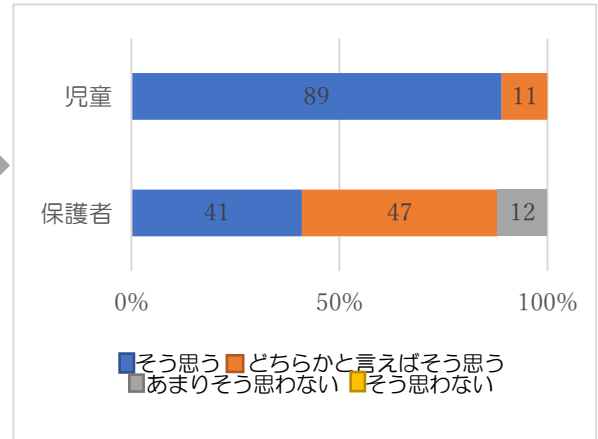
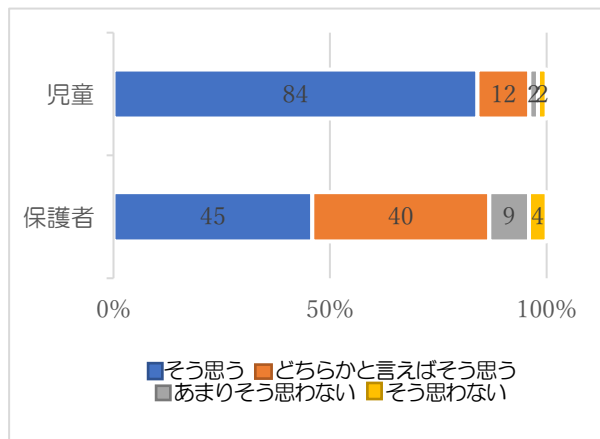
校内研究実態調査（2回目）結果と考察

令和3年2月に校内研究に関する実態調査を実施し、結果の集計と考察を行った。結果は有効数のみを計上し、無回答や未提出については結果に含んでいない。

〈質問1～6 お金の使い方や物を大切にすること（確かな金銭感覚）についての項目〉

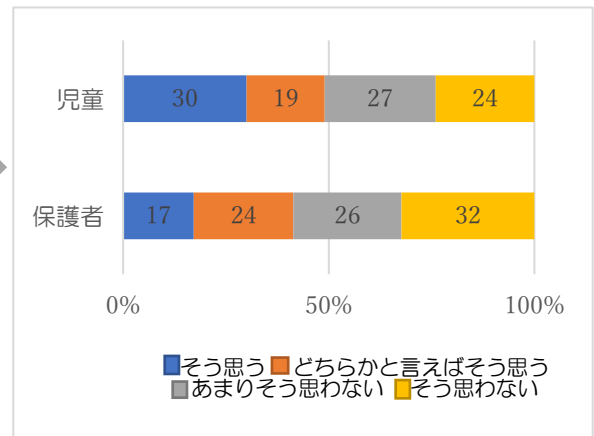
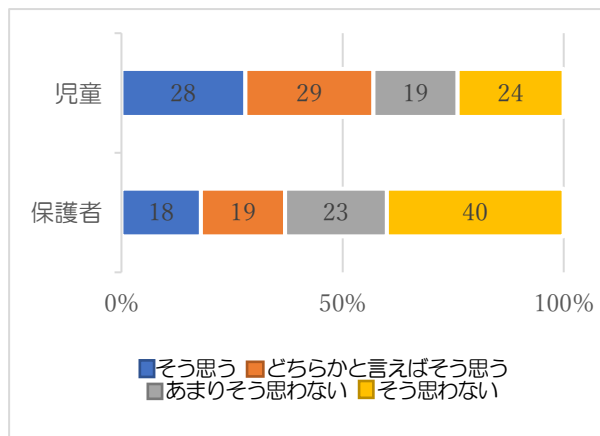
【質問1-1 お金は大切だと思いますか】（児童）

【質問1-2 お子さんは、お金は大切だと思っていますか】（保護者）



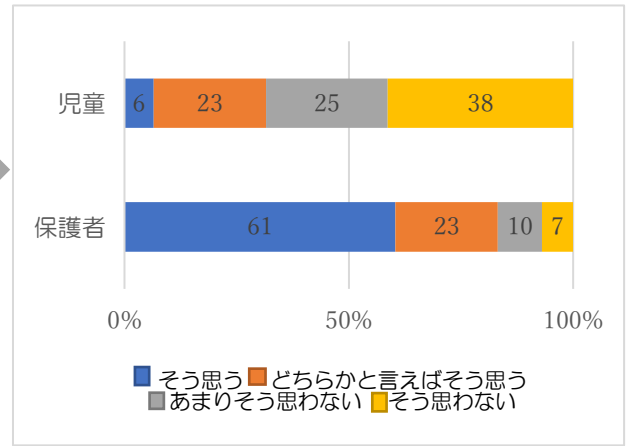
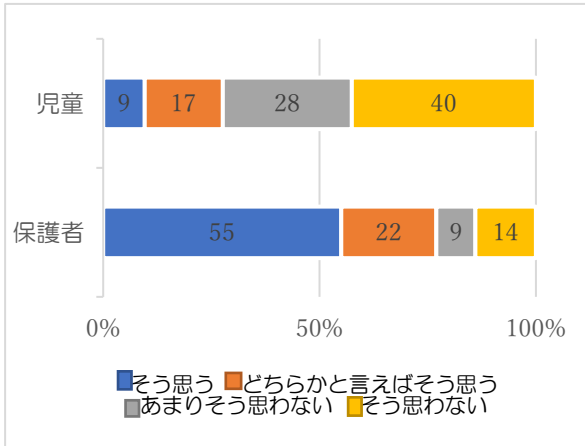
【質問2-1 おこづかいをもらっていますか（頻りにない）】（児童）

【質問2-2 おこづかいをあげていますか（頻りにない）】（保護者）



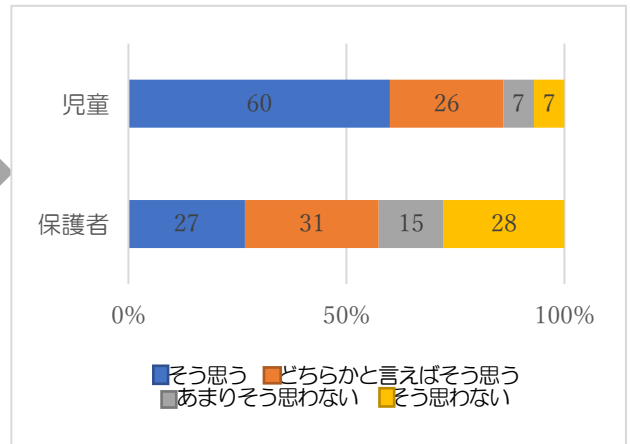
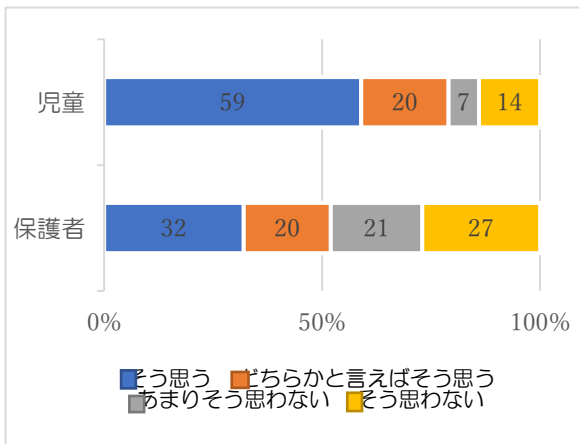
【質問3-1 おこづかいをもらったあと、すぐに使いますか】(児童)

【質問3-2 おこづかいをあげたあと、どのように使うか把握していますか】(保護者)



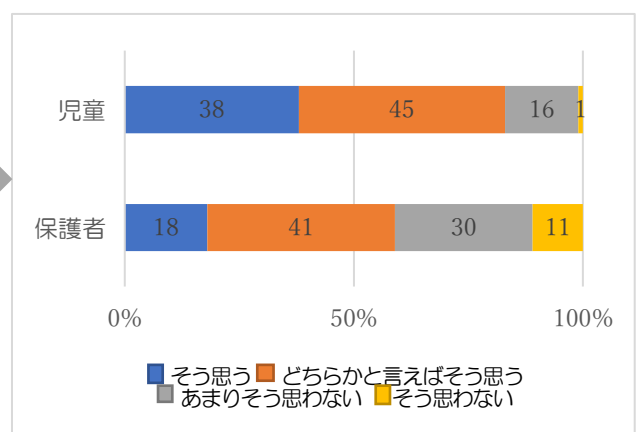
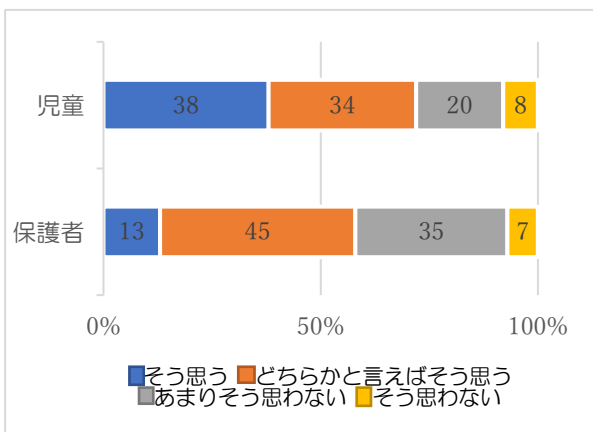
【質問4-1 貯金をしていますか】(児童)

【質問4-2 貯金をさせていますか】(保護者)



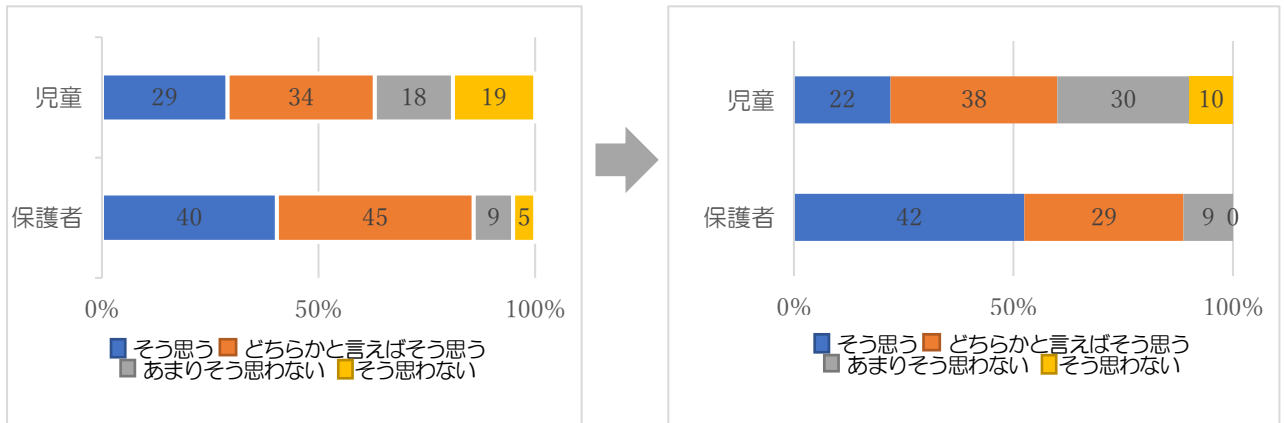
【質問5-1 自分の物や他の人の物を進んで片付けるなど、物を大切にしていますか】(児童)

【質問5-2 自分の物を自分で片付けさせるなど、物を大切にさせていますか】(保護者)



【質問6-1 物の扱い方について話をされますか】(児童)

【質問6-2 物の扱い方について話をしますか】(保護者)



★考察

確かな金銭感覚を中心とした質問事項について、全体的に見られていた児童と保護者との差が若干少なくなった。

質問1では、全児童が「お金は大切である」と回答していることは、1年間の金銭教育実践の成果と考えられる。

質問2では、児童や保護者の実態は、変わりないことがうかがえる。学校周辺や地域の現状では、実践的にお金を使う場が少ないことから、学校教育の中で指導できる確かな金銭感覚を身に付けさせていく必要があると考える。

質問3や4でも、児童と保護者との差が非常に大きくなった。質問2と4の結果を踏まえると、おこづかいを定期的にもらっている児童の約半数は、貯金をしている傾向は変わらなかった。

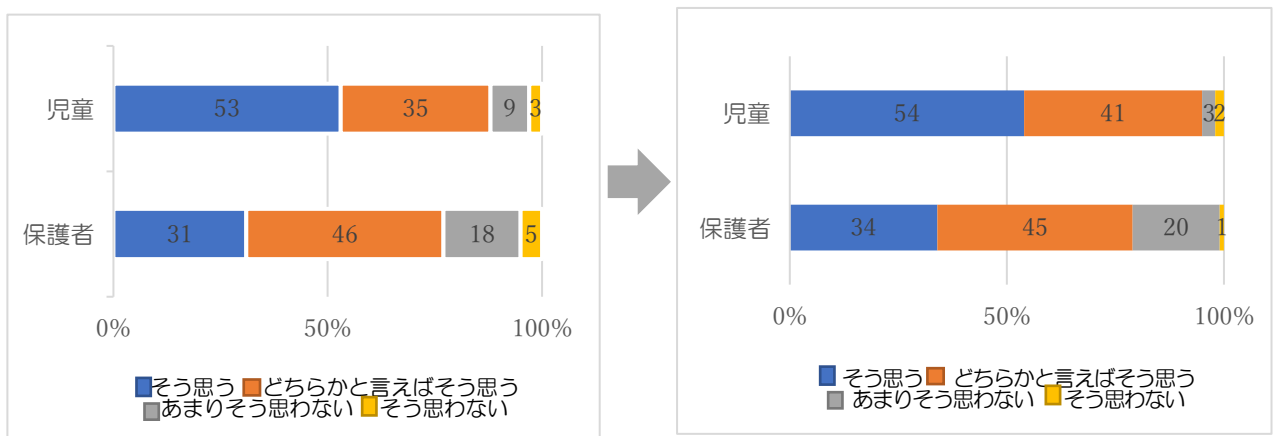
質問5及び6は、物の扱い方について尋ねた質問である。児童と保護者との差も見られるものの、児童及び保護者に、改善の傾向が見られるようになってきた。

引き続き、物の扱い方について指導し、物を大切に扱う情操や習慣を育てていくことは、金銭教育においても重要な部分であると考えられる。

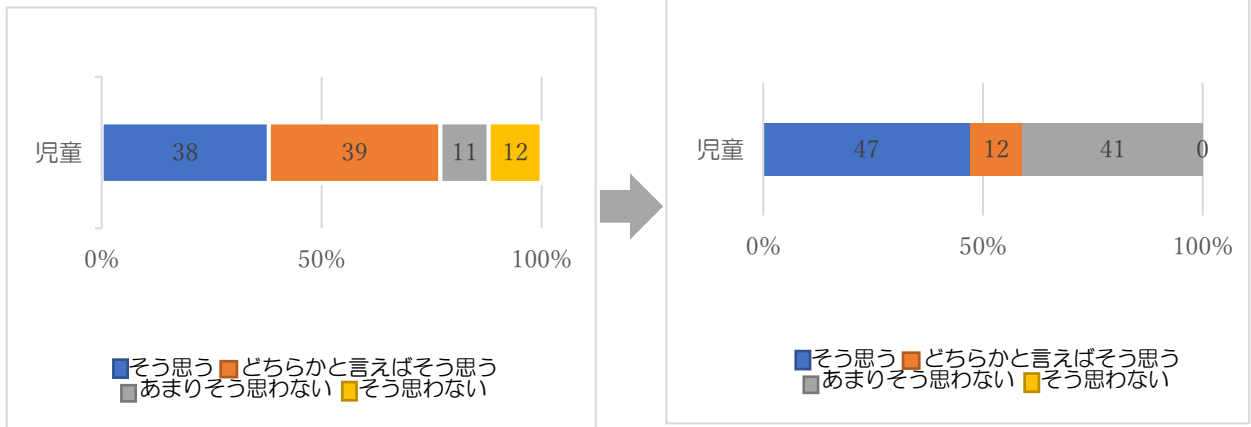
〈質問7~9 学校での活動に関すること(感謝と自立1)〉についての項目

【質問7-1 学校で当番や係、委員会などの活動を自分から進んで行っていますか】(児童)

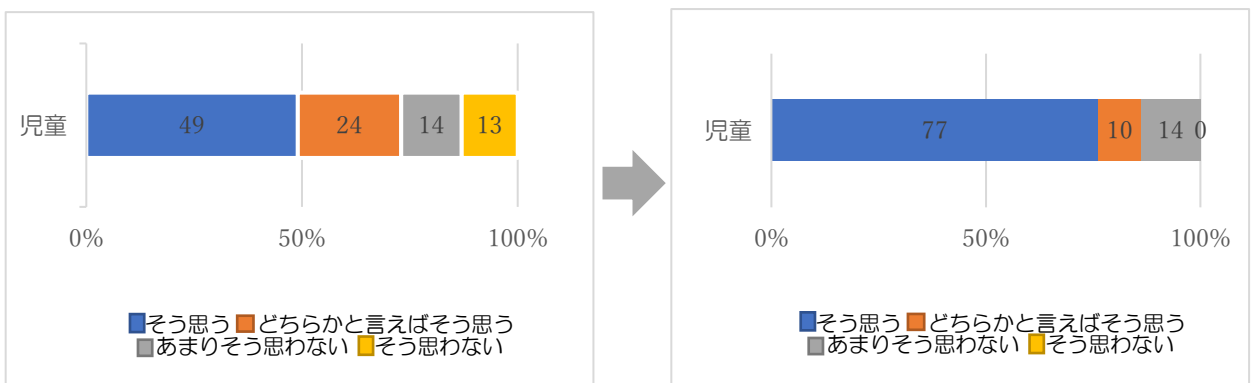
【質問7-2 学校で当番や係、委員会などの活動の話をしますか】(保護者)



【質問8-1 学校で働いている人がどんな仕事をしているか知っていますか】(児童)



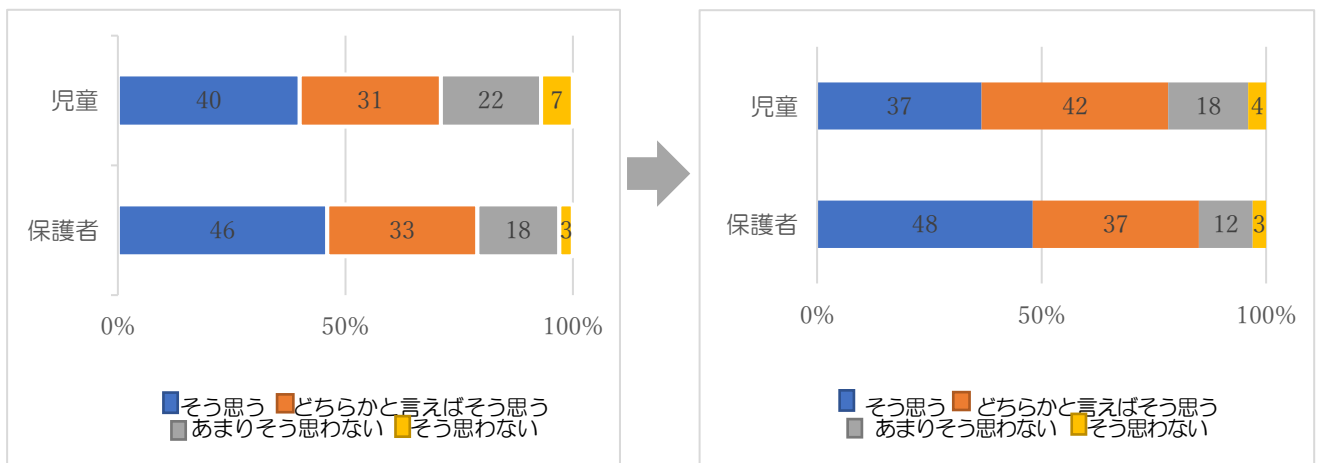
【質問9-1 学校には様々な人が関わって生活を送ることができることを知っていますか】(児童)



〈質問10~12 家庭での会話や保護者の仕事に関すること (感謝と自立2) についての項目〉

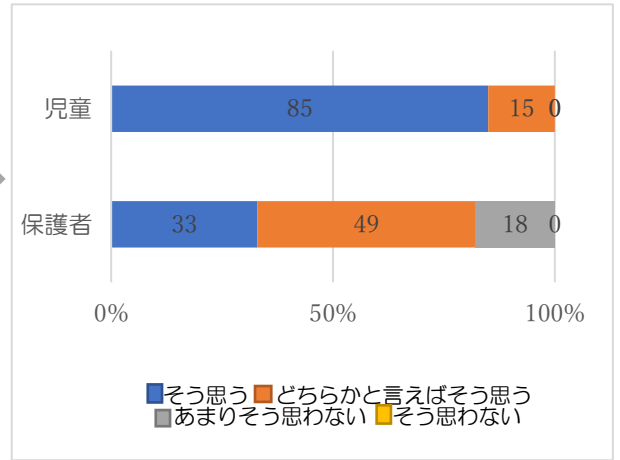
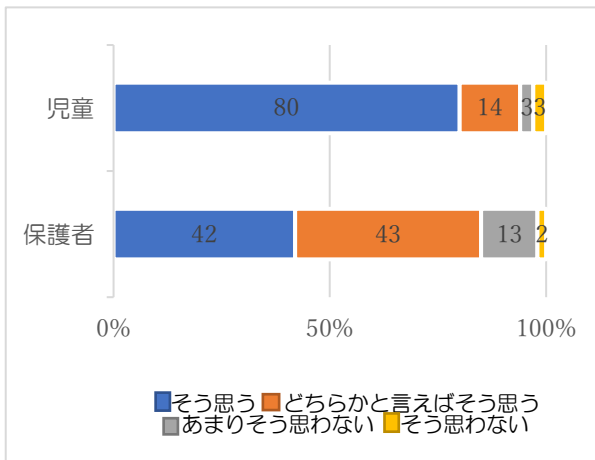
【質問10-1 家で日常的に手伝いをしていますか】(児童)

【質問10-2 家で日常的に手伝いをさせていますか】(保護者)



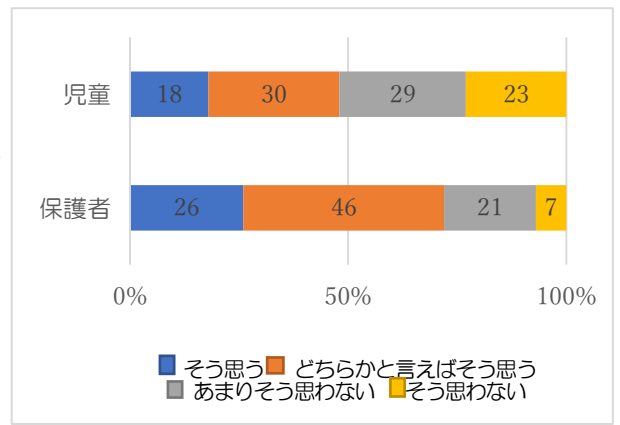
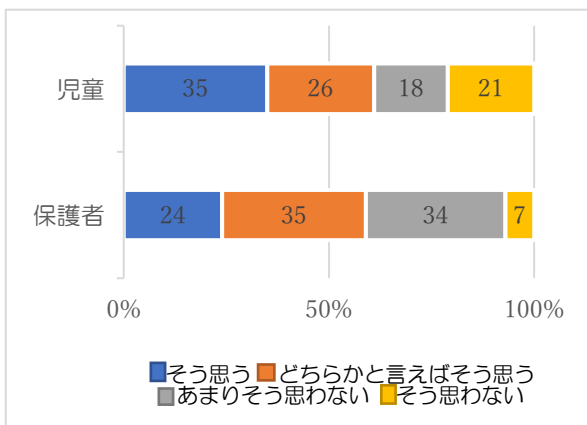
【質問11-1 家の人の仕事を知っていますか。】(児童)

【質問11-2 家の人の仕事について話をしますか】(保護者)



【質問12-1 家の人と将来の職業や夢について話をしますか】(児童)

【質問12-2 将来の職業や夢について話をしますか】(保護者)



★考察

労働（仕事）に対する感謝と自立の質問事項について、全体的に児童と保護者との大きな差は見られない。

質問7では、大きな変化は見受けられなかった。

質問8～9では、少し改善傾向が見られる。学校内の仕事や仕事をしている職員に目が向くようになったことがうかがえる。今後は、職員を中心に、関係する地域の方々などにも感謝の気持ちが芽生えるように指導していきたい。

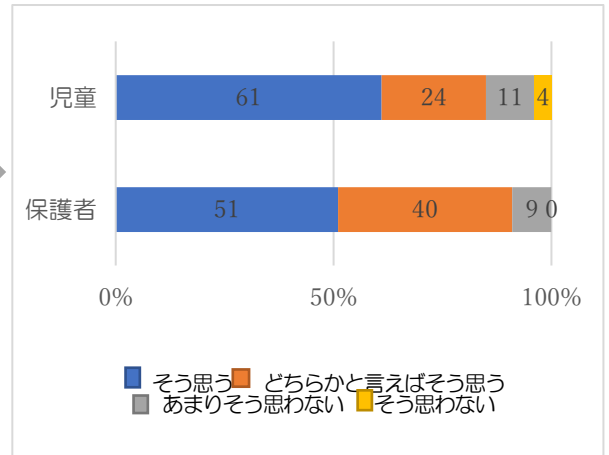
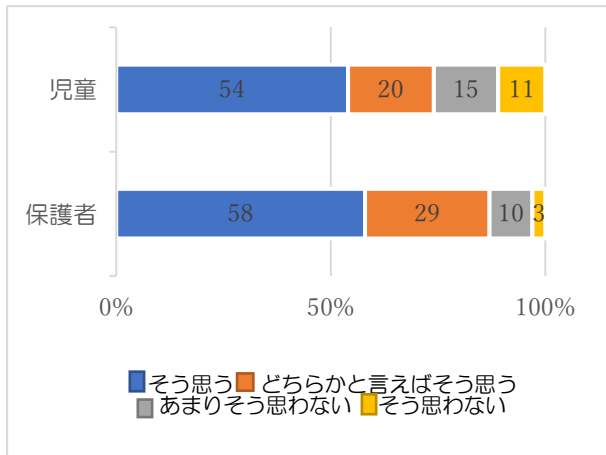
質問10～12では、依然横ばいが続いている。

一方で、質問11では、家族の仕事を知らない児童はいなくなり、家族の中で仕事について話題に上がる家庭も増えたのではないかと考えられる。

〈質問13～22 金銭観や実際の日常生活に関すること（豊かな金銭感覚）についての項目〉

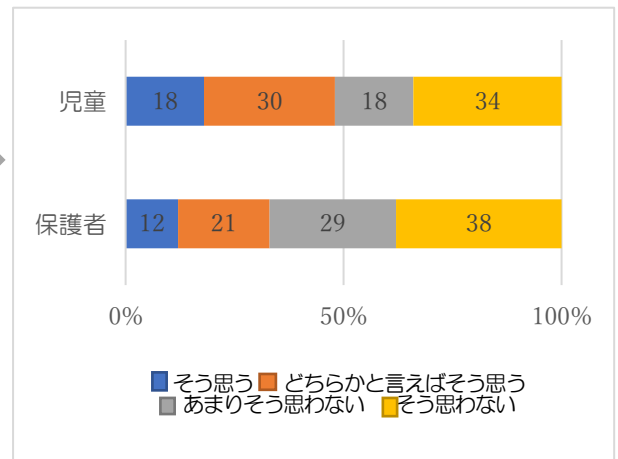
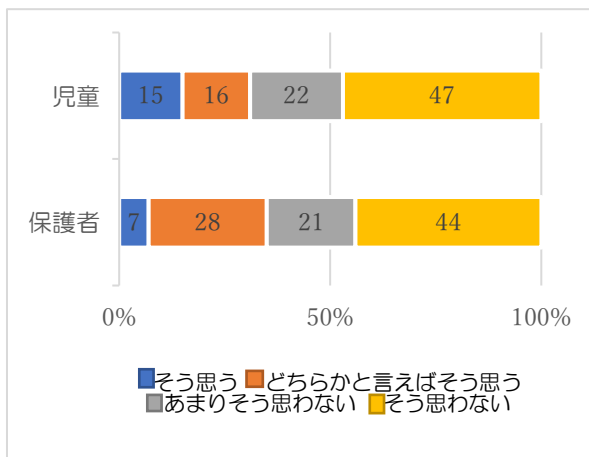
【質問13-1 家の人と一緒に買い物に行きますか】（児童）

【質問13-2 お子さんと一緒に買い物に行きますか】（保護者）



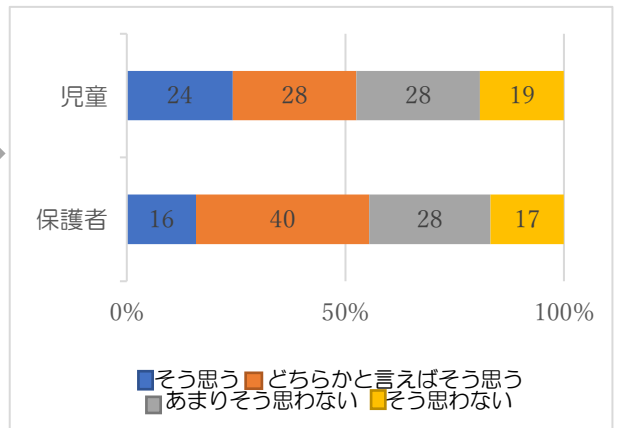
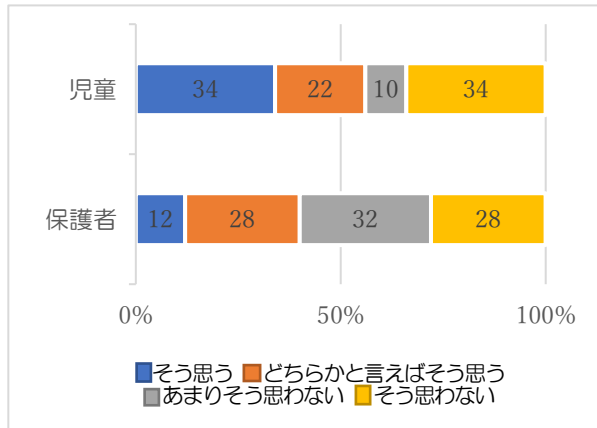
【質問14-1 一人で買い物に行きますか】（児童）

【質問14-2 お子さん一人で買い物に行かせますか。また、支払いをさせますか】（保護者）



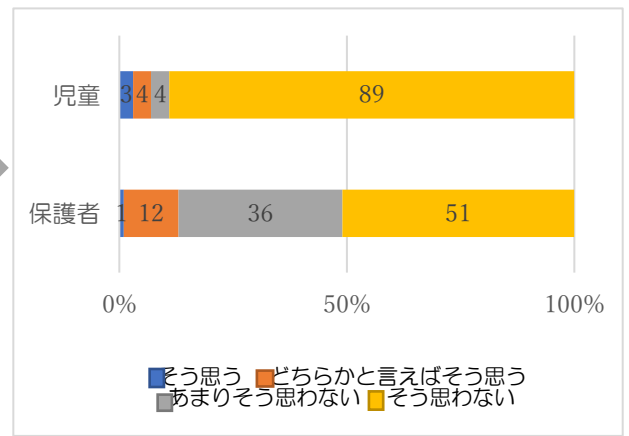
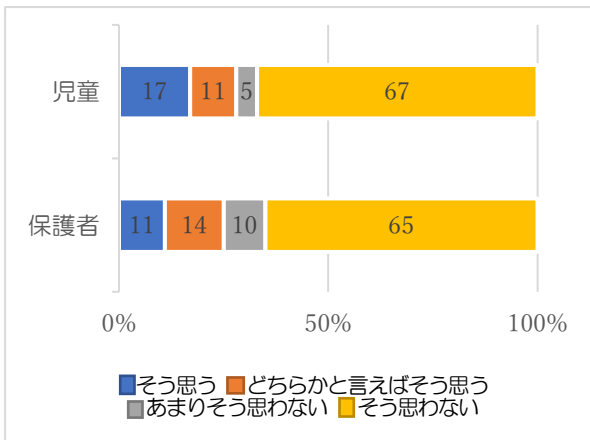
【質問15-1 買い物をする前に計画を立てますか】（児童）

【質問15-2 買い物をする前に計画を立てさせますか】（保護者）



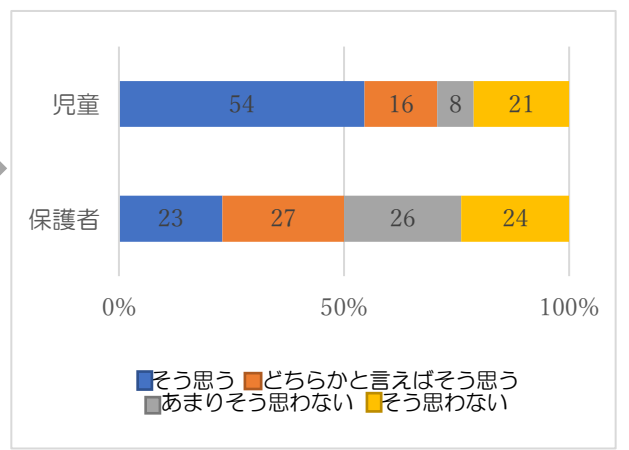
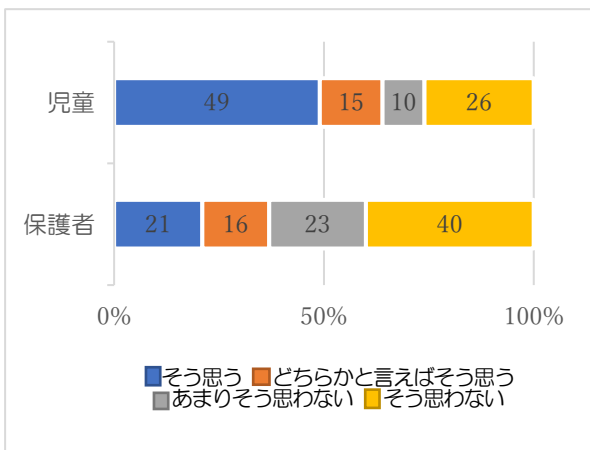
【質問16-1 お金は使ってもなくならないと思いますか】(児童)

【質問16-2 お子さんは、お金は使ってもなくならないと思っていますか】(保護者)



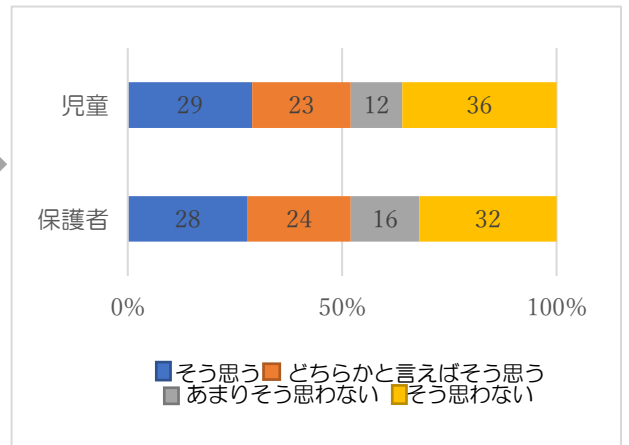
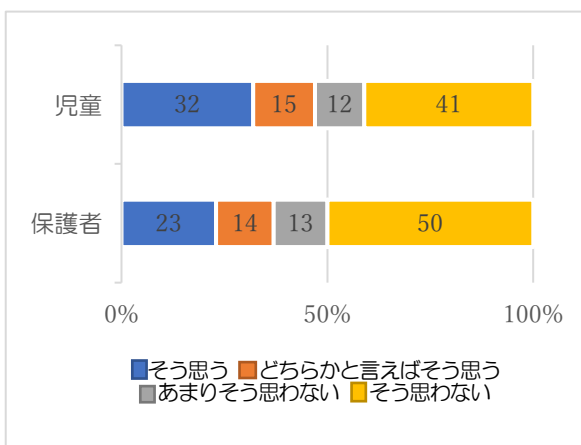
【質問17-1 キャッシュレス決済(デジタルマネー)について知っていますか】(児童)

【質問17-2 キャッシュレス決済(デジタルマネー)について関心はありますか】



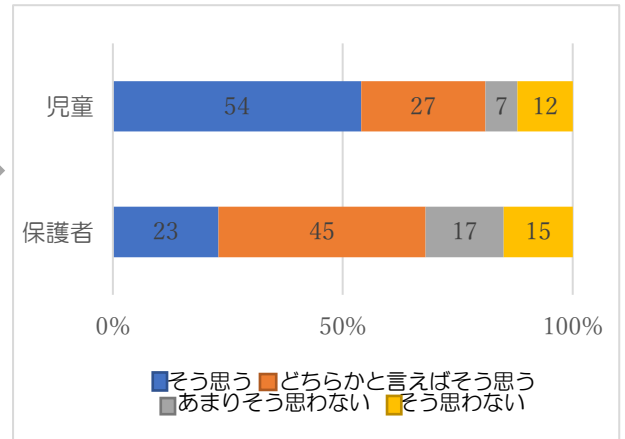
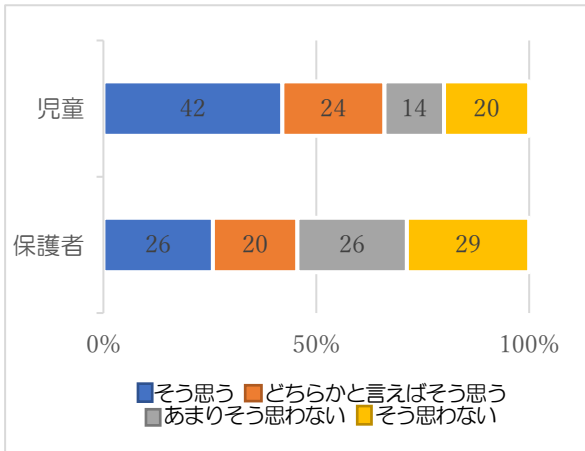
【質問18-1 キャッシュレス決済(デジタルマネー)を使ったことはありますか】(児童)

【質問18-2 キャッシュレス決済(デジタルマネー)を使っていますか】(保護者)



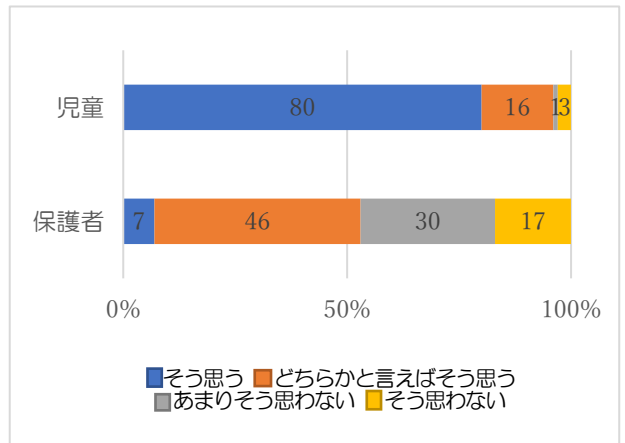
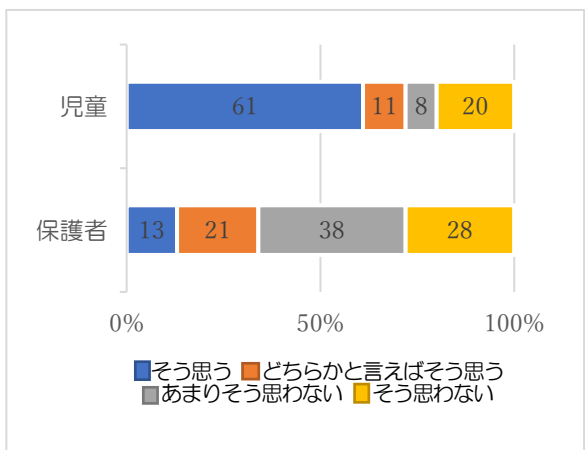
【質問19-1 キャッシュレス決済（デジタルマネー）は便利だと思いますか】（児童）

【質問19-2 キャッシュレス決済（デジタルマネー）は便利だと思いますか】（保護者）



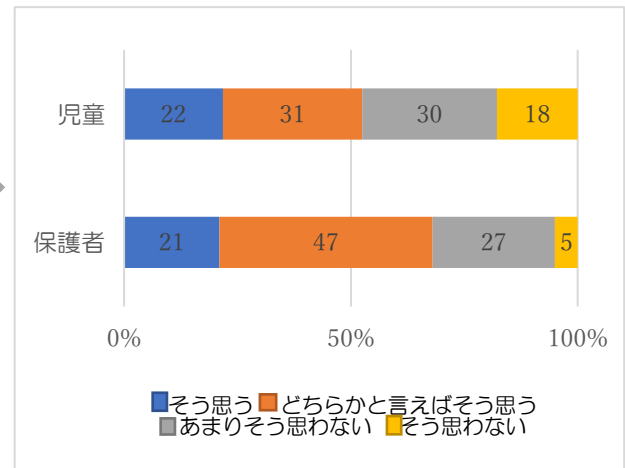
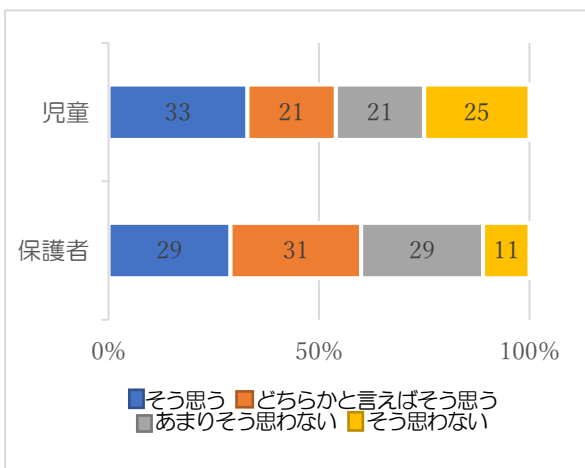
【質問20-1 自分自身の周りで、お金が使われていることを知っていますか】（児童）

【質問20-2 お子さんは、自分の周りで、お金が流通していることを知っていますか】（保護者）



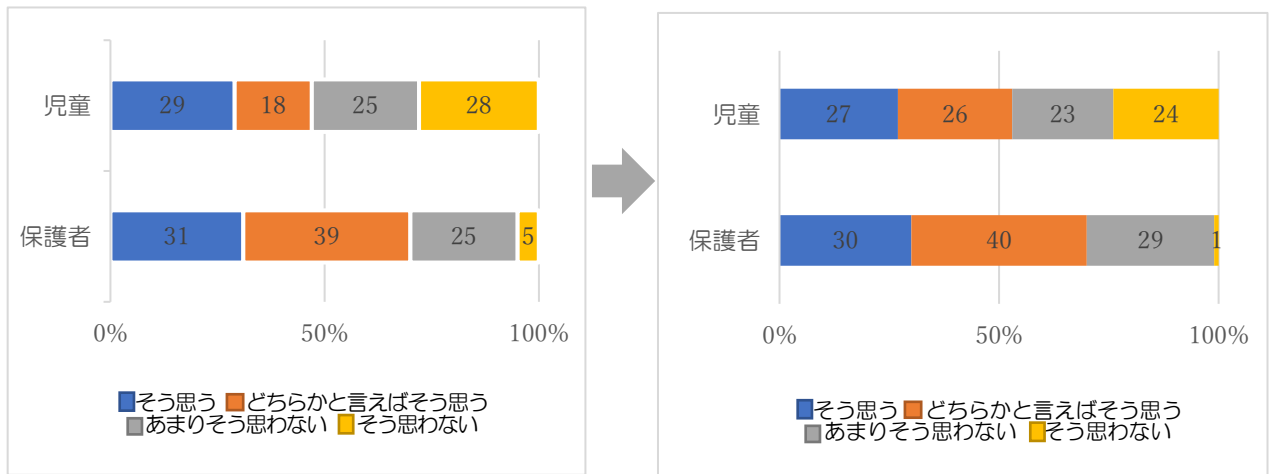
【質問21-1 物を買うときに家の人と、使用目的と金額のバランスについて話をされますか】（児童）

【質問21-2 物を買うときお子さんと、使用目的と金額のバランスについて話をしますか】（保護者）



【質問22-1 金銭について家の人と話をしますか】(児童)

【質問22-2 金銭についてお子さんと話をしますか】(保護者)



★考察

質問13～15の買い物に関する質問では、大きな変化は見られなかった。

質問16では、3割の児童が「家のお金はなくなる」と回答していたものが、1割にまで減っており、確かな金銭感覚が徐々に身に付いてきているものと推測できる。一方で、保護者の回答はシビアであった。この差が生まれた原因なども、今後研究していく余地がある。

質問17～19のキャッシュレス決済（デジタルマネー）について、児童、保護者とも関心が高くなったことがうかがえる。

キャッシュレス決済が進む中で、児童には豊かな金銭感覚のひとつとして、キャッシュレス決済等についての知識と、それを上手に使うことで生活が便利になることを理解させ、また、現金と同じように使えることや上手な使い方、気を付ける点を理解させていく必要がある。

質問20の金銭の流通に関する質問では、大きな改善があった。身近なところで多額のお金が使われていることや金銭の流通を各授業の中で意識付けることにより、気づきが生まれたものと考えられる。

質問21と質問22では、大きな変化は見られなかった。今後も、学校での学習が生活に結び付き、児童が金銭についての話に興味・関心をもち、家庭でも話題になるよう、金銭教育計画と指導法の改善が求められる。